

# 羽ばたこう 立志の丘から



平成30年1月25日

No.34

## 特別支援教育の研修

1月17日、冬休み明けの週でしたが、南教育事務所仙北出張所の相場指導主事を始め、大仙市教育委員会櫻田指導主事、県立聴覚支援学校濱田特別支援教育アドバイザー、同校照井協力校派遣教員、大仙市教育委員会藤井教育アドバイザーの5名の先生方にご来校いただき、本校教員が特別支援教育についての研修を深めました。

先生方には、1年生の数学科の授業を参観していただき、指導助言を賜りました。「生徒たちは、

課題に対する自分の様々な考え等をつぶやいて関わり合いながら取り組んでおり、授業に対する積極



的な姿勢が見られた、と評価していただきました。その上で、指導者の視点ではもちろんのこと、生徒の目線で授業を振り返ること、授業のねらいが、思考・判断なのか見方・考え方なのか、技能のかなどを吟味することなどのご指導を賜りました。また、生徒自身が自分のわからないこと、困っていることを意思表示できる関係、授業づくり等について、さらには、生徒の進路指導に関わり日頃の指導の在り方や将来自立できる生徒という視点での指導等についても、丁寧にお話していただきました。

特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に

立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を



改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものです。また、特別支援教育は、これまでの特殊教育の対象の障害だけでなく、知的な遅れのない発達障害も含めて、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施されるものです。さらに、特別支援教育は、

障害のある幼児児童生徒への教育にとどまらず、障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものであり、我が国の現在及び将来の社会にとって重要な意味を持っています。（文部科学省 特別支援教育「パンフレット」より）

特別支援教育の理念を踏まえ、ご指導いただいたことをもとに、生徒一人一人の特性やよさを生かした指導を展開できるように努めてまいりたいと思います。ご指導、ありがとうございました。

## 第4回大仙市シェイクアウト訓練

～命を守る1分間の防災行動訓練～

1月23日（ワン・ツー・スリーの日）、大仙市一斉のシェイクアウト訓練に、本校も参加しました。

シェイクアウト訓練とは？

大地震が発生したという想定で、あらかじめ決めた時刻に一斉に、参加者の皆さんが「まず低く（DROP!）」、「頭をまもり（COVER!）」、「動かない（HOLD ON!）」の安全行動をとり、各家庭や会社等で、いざというときの安全行動を確認するなどの短い時間でできる簡単な訓練です。



冬の防災訓練としても考え行いました。生徒たちは、警報が鳴ると速やかに机等の下に身を隠しました。様々な災害から、まずは自分の身を守る



意識を高めていきたいと思います。そして、自分の周囲への気遣い、「自助・共助・公助」の精神を育みたいと考えます。

感想としては、HOLD ON（動かない）の60秒は、意外に長く感じるということでした。

## インフル流行 1年B組学級閉鎖

1月18日頃からインフルエンザに罹患する生徒が増え、罹患者の多かった1年B組は、土日も含めた22日（月）を学級閉鎖としました。その後、罹患者の広がりはおさまってきたようですが、まだまだ油断できませんので、手洗いやうがいの励行、マスクの着用など、健康維持にご留意願います。

## 学校給食記念日・週間

1月24日は学校給食記念日で、30日までは学校給食週間です。

今では日本のほとんどの公立小・中学校で給食が提供されていますが、その歴史は古く今年で129年目になるそうです。明治22年に山形県鶴岡の忠愛小学校で、お弁当をもってこれられない子どもた



ちのために、おにぎりや塩サケ、漬物を出したのが学校給食の始まりだそうです。太平洋戦争中は食糧不足で中止されたよう

ですが、昭和21年12月24日にアメリカのNGO団体「ララ」から脱脂粉乳、小麦粉、缶詰などが送られたおかげで給食が再開、ユニセフなどからも沢山の食料が送られました。

昭和25年、世界の人たちへの感謝と戦後の再出発した意義を考え、冬休み後の1月24日を給食記念日に定めたそうです。その後、昭和29年には学校給食法が制定され、平成17年には食育基本法が制定され、「食育」の大切さが認識されてきました。（西部わくわくランチ「1月の予定献立表」から）

ちなみに、秋田県の学校給食の始まりは、国指定の名勝・旧池田氏庭園で有名な池田家だそうです。山形県の本間家、宮城県の前田家と並ぶ、東北の三大地主として知られている池田家では、私財を投げ打って、秋田県で初めて、旧高梨村（現大仙市仙北）の学校給食を始めたそうです。池田家は、子どもたちが勉強するために、図書館や講堂を造ったり、食糧難の時には学校給食を始めたり、病院を建てるために資金を提供したり、学校を建てるとなれば自分の土地を提供したりと、地域のために様々なことをやってくれたそうです。



記念日の献立は、ごはん、牛乳、お狩り場やき、切り干し大根ふくめ煮、ハタハタつみれ汁にデザートでした。いつものようにたいへんおいしかったです。（写真は寸暇を惜しむ3年生です。）

## あいさつ運動展開中

本校生徒のあいさつのよさは、開校以来の特色としておりますが、生徒会生活委員会では、この伝統をさらによくしようと、現在「あいさつ運動」を展開しております。

本校のあいさつスタンダードを「表情・明るさ

・元気」の三つとして全校生徒で取り組むとともに、各部活動単位でアイコンタクトや大きな声、立ち止まってのあいさつなどのモットーや実際を確認して実践しています。校内だけでなく地域においても、明るく元気なあいさつを広げて活気のあるまちづくりに貢献してほしいと思っております。

なお、各部の取り組みの紹介板は、心の教室の佐藤先生が作製してくれました。ありがとうございます。



## 全校一斉基礎学力テスト

寒中ではありませんが、生徒たちは日常の学習はもちろんのこと、全校一斉基礎学力テストにも取り組んでおります。全校生徒の基礎学力の定着を目標に実施しており、徐々にその成果も見えてきております。パーフェクト賞や年間を通した校長賞を励みに頑張っている生徒もおります。



## 大寒波

24日25日は、大寒波の大雪で道路幅が狭くなり、ホワイトアウト状態で前が見えなくなる状況も生じました。交通安全、また生徒の安全な登下校に、一層のご留意をお願いいたします。

このことに関連して、本校では朝の登校時に車で送られた場合は、校門前で車から降りて、立志の丘を歩くよう指導しています。校地内の安全確保と体力づくり等のねらいからです。そうしたとき、学校下の車道及び歩道、並びに乗降スペースの除雪は、市でおこなってくれていますが、車道と歩道の境に雪壁ができ、横断の妨げになることがあります。そのときは、本校技能主任の佐々木さんが、「左右確認」横断注意の看板の前を除雪してくれています。朝の学校の解錠、暖房の確認、玄関前等の除雪に加え、校門下まで行って横断のための除雪です。ありがとうございます。



なお、校門直前での横断は、道路がカーブして見通しが悪いため、生徒には、石名坂側の看板設置場所での横断を指導しておりますことを付け加えます。